

私の夢は発達障害の子達のために学校を作ることだ。

私にはADHDという発達障害がある。初めて知った時はすごく落ち込み、自分がみじめで仕方なかった。だけど私がADHDを受け入れながら前進できるよう、担任の清水先生が背中を押してくれた。クラスの皆のように当たり前に行きたくても、怒らずただ優しく見守ってくれたのだ。

さらに先生は特別なことを教えてくれた。それは「発達障害は障害じゃない。個性なんだよ。だからそもそも障害なんてものはない。」と。発達障害を悲観的にとらえていた私にとって、障害なんてそもそもこの世に存在しないという考え方は、目から鱗が落ちる思いだった。発達障害の子達の気持ちは誰よりもわかる。だから清水先生が私に教えてくれたことを、苦しんでいる子達に伝えて、救いの手を差し伸べたいのだ。

学校は発達障害の子達にとっても過ごしやすいものであってほしい。ADHDの特性の一つとして、私はよく忘れ物をしてしまう。その度に先生から「何でいつも持っていないの?」と叱られてきた。でも清水先生は責めなかった。それどころか、ノートから縄跳びまで色々なものを『皆に貸してあげるボックス』という名で作って、障害の垣根を取り払ってくれていた。

ADHDの長所に、興味のあることにはとことんのめり込むというものがある。だから歩み方次第では、数々の場面でエキスパートになれる可能性を秘めている。私の理想の学校では、発達障害の特性のせいで苦手になってしまいうような些細なことにはこだわらず、自分の長所や個性を伸ばすことに力を注いでいきたい。そして、子ども達が自分の素晴らしさに気づき、自信を持てるような学校を作りたい。そんな夢を私は描いているのだ。